



**「働きやすさ」とは、
どこでも誰でも
安心して働けること**

適切なテクノロジーを安全に使用することで、
全員の仕事環境が整い、確実に共同作業ができます。



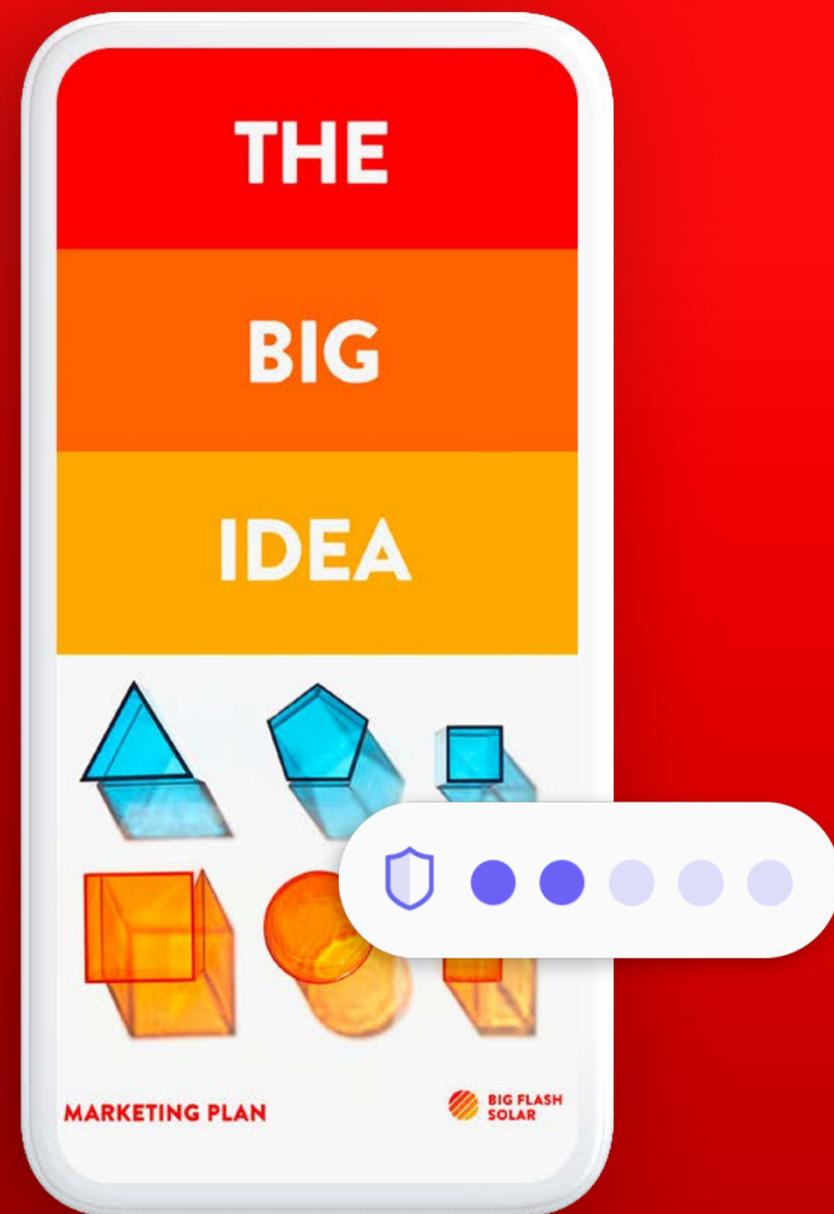


リモートワークやオフィスとリモートのハイブリッドワークは、企業規模の大小を問わず、良くも悪くも現実の働き方となっています。それだけ柔軟性が求められているということです。多くのチームが、希望の場所で希望の時間帯に働くという選択肢を持っています。そのメリットは従業員満足度だけでなく、業績向上などのビジネス指標においても明白です。Gartnerの調査によれば、全世界の従業員の43%が、柔軟に働き方を選べれば、生産性と効率性が向上すると回答しています¹。

理想の働き方は、適切なテクノロジーとすべてを接続するインフラがなければ実現しません。しかも、ビデオ会議だけの意味ではなく、セキュリティ強化、ブラウザーベースのアプリケーション、共同作業ツールといったあまり話題に上がらない機能も重要です。そのため、ITチームが中心となって柔軟な働き方を推進することになります。もっともITチームの多大な尽力により、安全な共同作業が維持される限り、他のチームはその対策やリソースに気づかないでしょう。

2022年の調査では、1,200人のセキュリティ専門家の57%が、自社の従業員の半数以上が週に2日以上リモートワークをしていると回答しています²。企業全体であらゆるチームがフルに活動するためには、多くの検討事項があります。様々なデバイスとアプリを一緒に使用する、職場と自宅を行き来する、社内ネットワークで個人のデバイスを（またはその逆を）使用する支援が必要でしょう。デバイス管理ポリシーを周知する必要もあります。その上で、全員のすべての動作について安全を維持するのは、かなりの難題です。

しかし、目の前の問題に対処しながらも、将来を見据えることも必要です。ITプロフェッショナルは、将来の働き方について特に大きな影響力を持つからこそ、今日、明日、さらにその先も、全員が働きやすいようにサポートする責任があります。



「働きやすさ」とは、 どこでも誰でも 安心して働けること

適切なテクノロジーを安全に使用することで、
全員の仕事環境が整い、確実に共同作業ができます。

- 1 「働きやすさ」の意味とは
- 2 働きやすさの支援がなぜ重要か
- 3 働きやすさとは、安全に働けること
- 4 安全に全員の作業環境を揃える難しさ
- 5 ITリーダーは働きやすさを推進する中心的存在
- 6 今日の安全、明日の安全...

1 「働きやすさ」の意味とは

働きやすさとは、単に働くための道具が揃うだけでなく、その仕事で成果を挙げ、働きがいを得られるようにすることです。つまり、従業員が自分に合った仕事の場所や時間を選べる柔軟性を意味し、働きやすさは人それぞれで異なります。

誰にも邪魔されない夜遅くに、ひとりで働きたい人もいます。活気のあるオフィスでこそやる気が湧き、ひとりでは気力が低下する人もいます。そして、多くの人が自律性を好み、長い散歩に出かけて頭をすっきりさせたり、作業の合間に洗濯したりして、仕事の後は家族と充実した時間を過ごせる働き方を望んでいます。

求められているのは、働く人を中心としたアプローチであり、クリエイティブな発想で柔軟性を高め、個人のニーズとビジネスのバランスをとることです。従業員だけでなく、顧客や地域社会にも目を向けるのが理想です。IBMは、人を中心とした組織を構築するためのガイドを作成し、理想とする構造改革に伴う課題を取り上げています³。ITチーム関連では、従業員が作業速度を落とさずに安全に業務を遂行できる方法を見つけることが重要、ワークフローを高速化するソリューションを見つけるができればより良いとしています。



どこでも、全員をサポート

それぞれの従業員に最適な働き方を提供したいと考える企業の多くは、リモートとオフィスのハイブリッドワークを採用しています。そのため、ITチームは適応力のあるサポートとインフラを提供する必要があります。すべては適切なソリューションを選択できるかどうかにかかっています。



リモートとオフィスのハイブリッドワークを採用し、そのテクノロジーのニーズを実証しているのが、英国を拠点とする法律事務所の Slater & Gordon です。地理的に分散したチームは、メンバー間に加えて、世界中のクライアントともやり取りをしています。

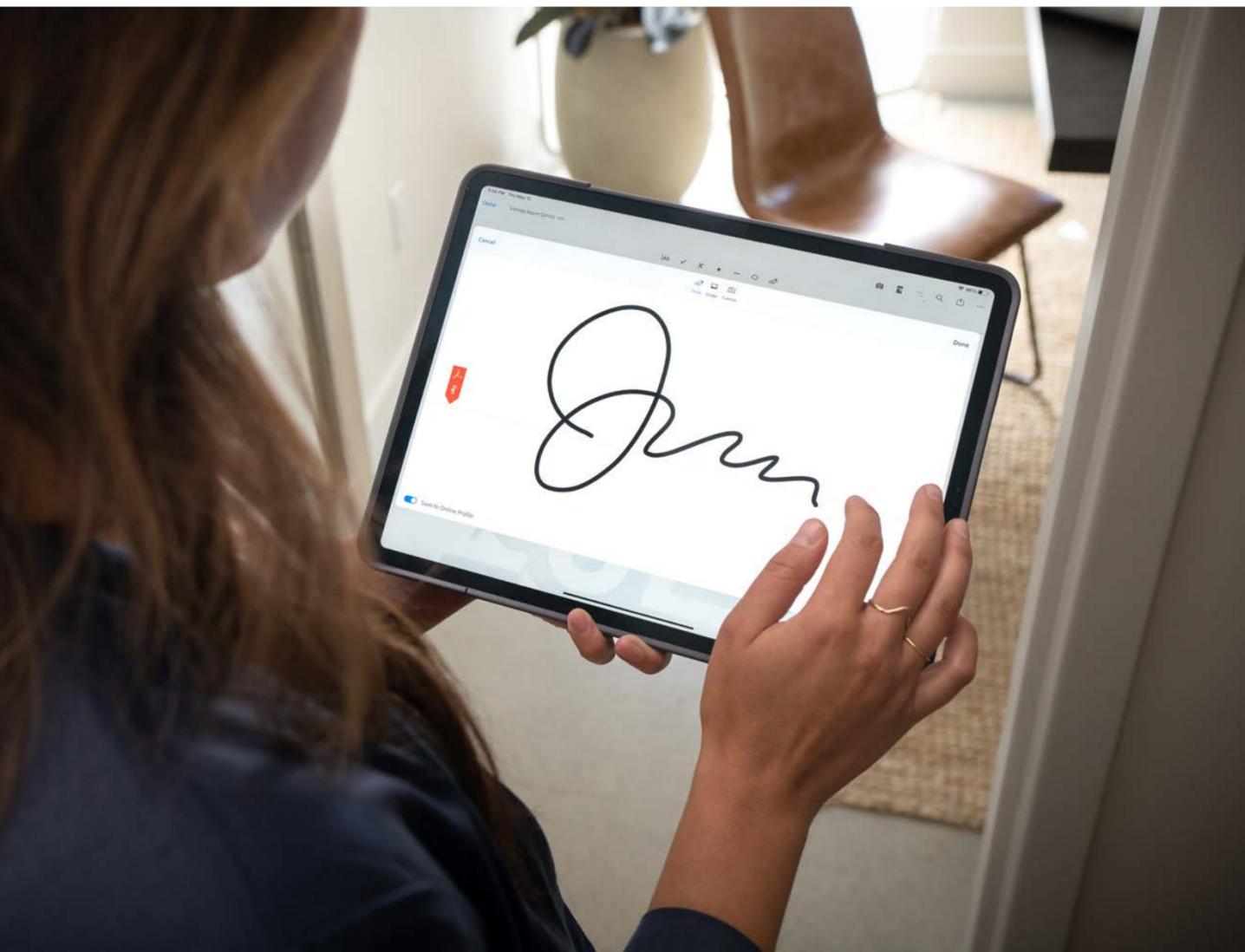
Slater & Gordon の役割は、住宅の売買、遺言書の作成、人身事故への対応といった人生における重大事象について法的支援を必要とする個人客と英国全域の法律専門家を結びつけることです。それぞれの専門家は、モバイル、電子メール、webチャット、オンラインリクエスト、オンライン質問、請求プラットフォームなどを使って、いつでもどこからでも手軽かつ安全にクライアントとやり取りできる必要があります。

この特殊なビジネスモデルを管理するために、同社は「Work Anywhere, Automate Everything & Innovate (どこからでも対応、全自動化による革新)」というクリエイティブなテクノロジー戦略を開発しました。これにより従来の紙ベースの事務処理をなくし、Microsoft 環境下でアドビ製品を使用した安全なデジタル取引に移行することができました。

Adobe Acrobat と Acrobat Sign を使用することで、あらゆる種類の文書を共有可能で安全性の高いデジタルファイルに変換し、電子サイン、監査証跡、直感的なトラッキングによりワークフローを合理化できます。Microsoft Managed Desktop および Teams との完全な統合により、デスクトップ、ラップトップ、モバイルのいずれでも使い慣れたインターフェイスで文書作業ができます。Slater & Gordon は、この方法で毎月1万3,000枚もの文書を処理し、顧客基盤の拡大を実現しました⁴。

2 働きやすさの支援がなぜ重要か

自分に合った働き方ができれば、働きがいを感じることができ、仕事へのモチベーションとやる気が湧きます。働く場所、時間、量を自分で選択することで生産性が向上すると、多くの従業員が感じていることも、調査で確認されています。



IBMの調査⁵によれば、従業員の働きやすさを優先する企業は大きな成果を得ています。従業員の働きやすさスコアが上位

25%の企業は、売上高利益率が下位25%の企業の2倍でした⁶。

逆に、働きやすさを無視することのデメリットもあります。優秀な人々を確保して、多様な労働力を創出し、維持することが難しくなる可能性があります。今いる従業員も失うかもしれません。例として、最近おこなったアドビの調査では、企業で働く人の

54%が、リモートワークを選択できれば転職すると回答、Z世代では63%、ミレニアル世代では66%に上りました⁷。

米国では、従業員の年俸の約

150%のコスト⁸が代替要員の採用、リクルート、研修、スキルアップ、オリエンテーションなどにかかり、

その間の生産性も低下することから、働きやすさの支援を怠る代償は多大です。

3 働きやすさとは、安全に働けること

ITチームの課題は、どこにいてもすべての人に望むものを提供し、ユーザーとビジネスの安全性を維持することです。ファイアウォールやVPNの内外を行き来して働くことを考えれば（個人所有のデバイスを社内ネットワークで使用したり、会社のデバイスをホームネットワークで使用したりすることもあるでしょう）、多くの企業がセキュリティ侵害に直面するのも当然です。

424万ドル : 500社以上の企業を対象とした2021年のグローバル調査によれば、データ漏洩事件の平均コストは424万ドルでした⁹。予想どおり、情報漏洩の原因として最も多かったのは、ユーザーの資格情報が盗まれたことによるもので、漏洩したのは顧客の個人データが最多でした。

80% : データ漏洩の80%は、依然として人為的なミスが原因です¹⁰。柔軟な働き方に果たすITの役割を軽視してはならないことがわかるでしょう。最新のテクノロジーソリューションと適切なサイバーセキュリティ研修／プロセスの組み合わせで、多層的なアプローチを取る必要があります。文書とデータを安全なクラウドベースの保存先で一元管理すれば、従業員が複数のデータサーバーを使用して作業するリスクを軽減できます。大切なビジネスデータを常に監視下に置くことができ、安全にバックアップも確保できます。



4 安全に全員の作業環境を揃える難しさ

全体的な課題となるのが、ビジネスを保護しつつ、従業員が働きやすいように、柔軟な働き方を支援する方法です。包括的な検討にあたり、考慮すべき重要な要素がいくつかあります。

至るところにデバイスだらけ

従業員が何種類ものデバイスの使用を強いられる状況下では、様々なリスクが生じます。リモートワーカーは、ラップトップ、個人用と業務用の携帯電話のほか、自宅のプリンターやタブレットを使うこともあります。イギリスとアメリカで2021年におこなった調査では、半数近く（47.8%）がデバイスを2台使用し、19.2%が3台、およそ10人に1人（8.5%）がそれ以上使用しています¹¹。グローバル調査に参加したITチームの83%が「プライベートと仕事の切り分けができない現在、サイバーセキュリティに関する社内ポリシーは設定も強制も不可能」と回答しているのも当然の結果でしょう¹²。

もうひとつの危険は、オフィスでもリモートでも、認証されていない個人のデバイスをネットワークに接続することです。2022年のグローバルセキュリティレポート¹³では、70%の企業が個人のラップトップとモバイルデバイスによる社内ネットワーク接続を許可し、一方で業務用ラップトップを使用する従業員のリモートアクセスを制限している企業はわずか17%でした。

しかし、在宅勤務者が自宅のネットワークで業務用デバイスを使用することも、企業にとってのリスクとなります。在宅勤務者の70%が業務用ラップトップを自宅のネットワークに接続しており、半数以上（52%）がIoTデバイスもネットワークに接続しています。インターネット接続が可能なデバイスは、特に無名ブランドの場合、パスワードが工場出荷時のまま変更されていない、ファームウェアにパッチが適用されておらず脆弱性があるなど、あらゆる点で安全ではないことが広く知られています¹⁴。

使用するのはあくまでも人間

分散型の勤務態勢は、個人がサイバーセキュリティを意識し、自分のささいな行動がビジネスの安全に及ぼす影響を理解しているかどうかにかかっています。しかし、研修不足と単純なヒューマンエラーが起こりえるため、従業員がセキュリティチェーンの中で最も脆弱な部分となります。

実際、2019年の調査¹⁵によれば、自宅のネットワークを保護するための研修を受けたことがあるグローバルオフィス勤務者の割合は、調査対象のわずか36%でした。18歳～24歳の従業員の54%が、データ漏洩による企業への影響よりも納期を心配すると回答しています。

2021年のグローバルセキュリティ調査レポート¹⁶によれば、リモートワークをおこなう従業員の79%が、セキュリティ対策は重要とわかっていながら省略しています。3分の1（33%）がブラウザーにパスワードを保存し、32%が公共Wi-Fiを利用、4分の1近く（23%）が複数のサイトでパスワードを使い回すか、同僚と資格情報を共有していました。2021年のIBMの調査では、なんと82%が複数のアカウントで同じパスワードを使用していると回答しています¹⁷。

負担を増やさず、IT化を推進する

リモートとオフィスのハイブリッドワーク、分散チーム、フレックスタイムに対応するため、共同作業ツールやその他のリモートソフトウェアソリューションへのニーズが近年高まっています。

大規模企業では平均して1,000以上のクラウドサービスを利用しているという試算もあり¹⁸、Gartnerは、全世界の公共クラウドサービスへの支出額が2022年末までに4,947億ドルに達すると予測しています。2020年に企業は平均137のSaaSアプリを使用し、小規模企業は平均20万2,000ドル、中規模企業は247万ドルを費やしました¹⁹。

クラウドへの支出が急速に増加してから数年経ち、現在は多くの企業が最適化を目指しています。Gartnerは、2026年までに複数のSaaSアプリケーションを使用する組織の50%が、そのアプリケーションの管理と利用指標をSaaS管理プラットフォームで一元管理するようになる予測しています²⁰。

コスト面は別としても、複数の独立したアプリを使うことは、ビジネスプロセスが非効率になります。データが別々のシステムでサイロ化し、意思決定者がすべての関連情報を網羅して把握できないため、顧客対応の分裂や途切れにつながります。さらに、いくつものインターフェイス、各種異なるUIを切り替える必要があれば、新しいソフトウェアを学習して慣れるまでと同じことで処理速度が遅くなります。

アプリとプラットフォームが統合されインターフェイスの数が少ないほど、自動化を活用でき、反復作業を効率化できます。1週間の労働時間の3分の1が「重要でない」作業に費やされていることを考えれば、途方もなく大きな違いとなるでしょう²¹。

最後に、ソフトウェアソリューションの特長はセキュリティが非常にシンプルであることです。すべてが同じエコシステム内に安全に維持されます。



5 ITリーダーは働きやすさを推進する中心的存在

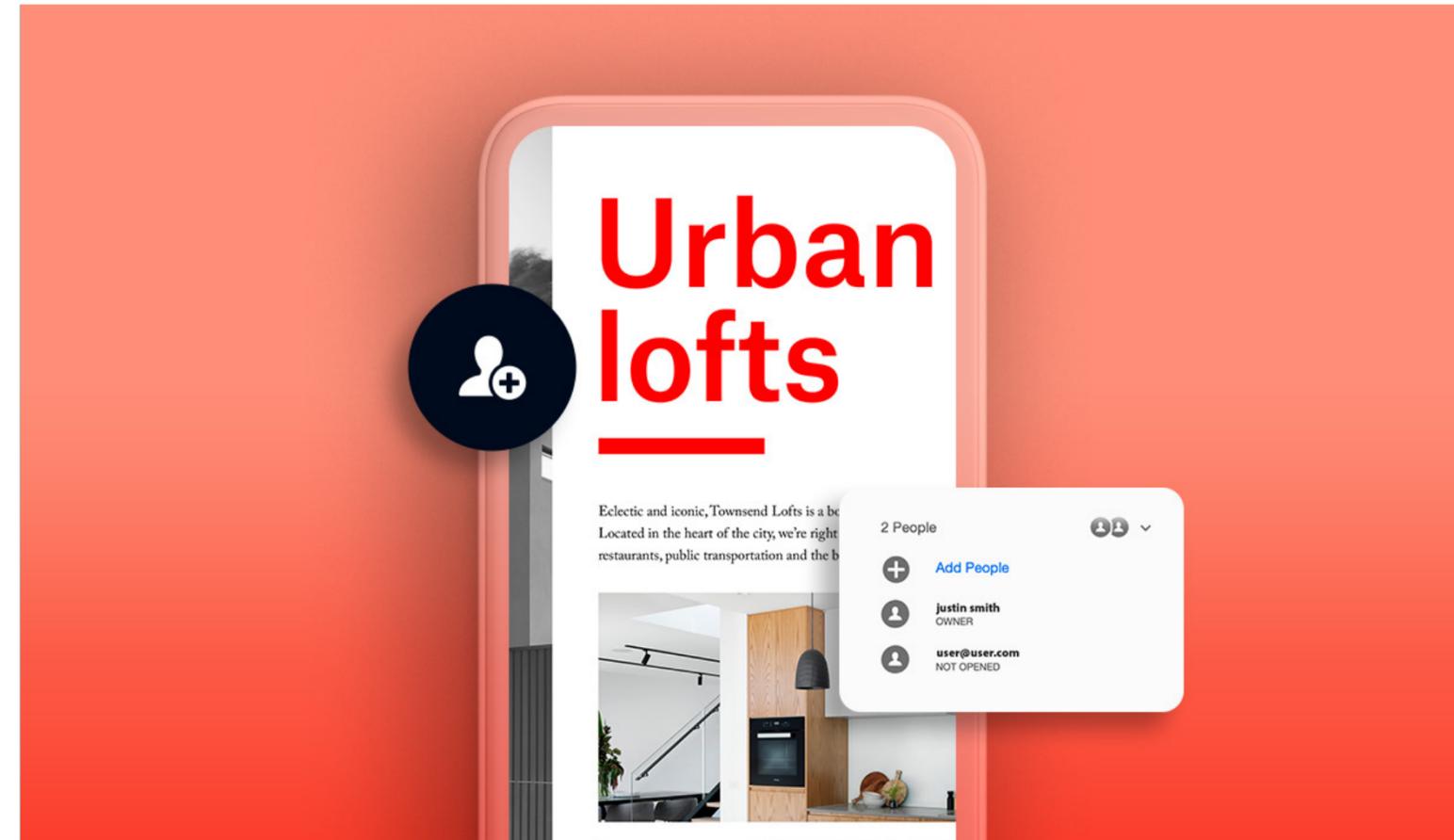
ITチームには、働き方改革の推進役にふさわしいスキルと知識があります。

この機会に、自社の長期的なデジタル対応力を再評価してみましょう。機動力を維持しつつハイブリッドな作業環境を整備するための機能を組み込みましょう。ユーザーから常にデータを収集して操作情報を最大限に活用することで、改善のためのインサイトを特定します。主要なデジタルツールすべてでベストプラクティスを維持する、中核的研究拠点となるでしょう。

コストの増大や生産性の低下を招くことなく、働きやすくするには、いくつかの重要な観点があります。

セキュリティを重視する

業務上、自社のセキュアなネットワークに作業者が出入りする場合は、ゼロトラストセキュリティのアプローチを検討しましょう。ネットワークやユーザー識別情報が既に侵害されていると想定することで、最も安全な運用方法を提案するモデルです。セキュリティプロトコルとツールをひとつずつ導入するのではなく、AIと分析手法によりユーザー、データ、リソース間の相互作用を継続的に検証します。IBM Securityの調査によれば、ゼロトラスト戦略を長年導入している企業はまったく採用していない企業と比較して、2021年のデータ侵害によるコストを176万ドル削減できました²²。



ワークフローを効率化するデジタルツールを選択

適切なツールを使用することで、無駄な労力と不必要なセキュリティリスクを回避し、従業員の生産性を向上できます。理想は、使いやすく統合が容易なオールインワンソリューション、そしてデバイスを選ばず動作するブラウザベースのオンラインアプリです。リモートでの共同作業ツールの使用方法を統一すれば、リモートチーム内の業務の流れがスムーズになります。離れたチームごとに異なるツールを使えば、ワークフローに滞りが生じるでしょう²³。リモートとオフィスのハイブリッドワークに関するグローバル調査によれば、Z世代の大企業の従業員の70%が、効率よく働けるツールを使えるならば転職すると回答しています²⁴。

自動化と統合によるワークフローの高速化で、生産性の向上が期待できる重要な分野に、文書フローがあります。**大企業の従業員の72%が、業務の効率化を妨げる作業として「ファイルの検索、共有、アクセス」を挙げています²⁵。**

文書の作成、共同作業と承認は、ほとんどの企業で今でも必須の要件であり、顧客への文書配布が必要な企業ではさらに重要度が増します。



Forrester Consultingが実施したコスト削減とビジネスメリットの分析²⁶によれば、他の生産性向上ツールと統合されたオールインワンソリューションを使用することで、ワークフローのスピードと効率を大幅に向上できます。さらに、コスト削減、カスタマーエクスペリエンスの向上、ビジネス拡大にもつながります。

Adobe Acrobatは、PDFと電子サインの統合型オールインワンソリューションであり、デバイスを問わず安全に動作します。誰でもどこでも、PDFの作成、共同作業、署名ができます。Microsoft 365など、お好みのMicrosoftアプリで使用できます（Acrobat SignはMicrosoftが推奨する電子サインソリューションでもあります）。セキュリティとコンプライアンスを維持しながら、文書の送信、署名、トラッキング、管理を高速化できます。

Forresterの調査によれば、Adobe Acrobat Signを使用する企業は平均519%の投資収益率が得られ、電子サインソリューションのコストを25%削減できます。Microsoftアプリケーションと併用すれば、バックオフィスの効率を平均47%向上し、920万ドルに相当する処理時間を短縮できます。また、Acrobat Signは精度の高さが特長であり、85%の利用企業が、文書ミスが減ってカスタマーエクスペリエンスが向上したと報告、58%の企業で従業員の離職率が低下しています²⁷。

6 今日の安全、 明日の安全...

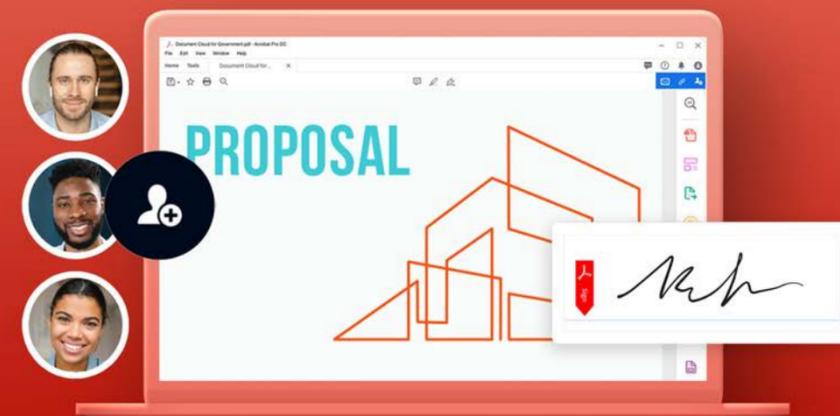
働きやすさを実現するには、現在だけでなく将来にわたって常にシームレスで安全性を維持する必要があるため、ITリーダーには柔軟性と創造性が求められます。時が経つにつれて、次々に新しい課題が増えるとしても、原則は変わりません。

全員ができるだけ裁量を持ち、自分に合った働き方ができるように、企業の利益を維持しつつ、個人を考慮する必要があります。コスト削減、テクノロジースタックの縮小、ワークフローの摩擦解消を実現する統合ソリューションを選ぶことで、どこでも誰でもサポート対象とすることができます。

Acrobatはチームをひとつにまとめます。地理的に離れていても、全員の作業環境を揃えることができます。安全でスマートな共同作業を可能にし、各自がどこにいても、どこからでも仕事ができるオールインワンソリューションです。

Everyone, everywhere. Working together.

And everyone's on the same page.



With new ways of working leaving many workers dispersed and busier than ever, how can we ensure we continue to work well?

Flexible working requires flexible tools. That's why Adobe Acrobat simplifies the way we work and accommodates productive workflows—whatever the device.

This all-in-one integrated PDF and e-signature solution enables you to create, edit, share, and manage documents collaboratively—empowering teams to get more done quickly.

With 40 years' experience, Adobe is the trusted choice. Our standardized PDF creation makes it easier to manage security and compliance—with features such as password protection to add that extra layer of security you need.

Let's get you and your teams on the same page.

 Acrobat's got it.



アドビをお勧めする理由

ビジネスでは文書が不可欠であり、今日のチームは信頼できるソフトウェアを使用して、どこからでもシームレスに文書業務を遂行することを期待しています。PDFを考案したアドビが提供する Adobe Acrobat は、PDF と電子サイン機能を統合したツールで、今日のハイブリッド組織のために作られています。Adobe Acrobat のような信頼できるブランドのオールインワンソリューションを使えば、仕事の流れを止めることなく、自信を持って仕事を遂行できます。

[詳細を見る](#) >

[お問い合わせ](#) >



© 2023 Adobe. All rights reserved.

Adobe, the Adobe logo, Acrobat, the Adobe PDF logo, and Document Cloud are either registered trademarks or trademarks of Adobe in the United States and/or other countries. All other trademarks are the property of their respective owners. Any reference to Big Flash Solar or Townsend Lofts, their logos, and/or their products or services is for demonstration purposes only and is not intended to refer to any actual organization, products, or services.

出典

- ¹ Laurence Goasduff、[「Digital Workers Say Flexibility Is Key to Their Productivity」](#)、Gartner、2021年6月9日
- ² Danielle Guetta、[「The 2022 Workforce Security Report」](#)、Check Point Software Technologies、2022年2月2日
- ³ [「Building a Human-Centered Organization」](#)、IBM
- ⁴ [「World-Class Legal Services for Everyone」](#) Adobe customer success story for Slater & Gordon
- ⁵ [The Financial Impact of a Positive Employee Experience](#)、IBM および Globoforce、2018年
- ⁶ 同上
- ⁷ [The Future of Time](#)、Adobe Document Cloud によるグローバル調査、2021年8月
- ⁸ Brandon Rigoni および Bailey Nelson、[「Many Millennials Are Job-Hoppers—But Not All」](#)、Gallup、2016年8月9日
- ⁹ [「IBM Report: Cost of a Data Breach Hits Record High During Pandemic」](#)、IBM Newsroom、2021年7月28日
- ¹⁰ [2022 Data Breach Investigations Report](#)、Verizon、2022年
- ¹¹ Netmotion Software Experience Monitoring Report 2021、Netmotion、2021年
- ¹² [Rebellions & Rejections Report](#)、HP Wolf Security、2021年
- ¹³ Danielle Guetta、[「The 2022 Workforce Security Report」](#)、Check Point Software Technologies、2022年2月2日
- ¹⁴ [Head in the Clouds: How Remote Working Behaviours Are Exposing Organisations to Cyber Risks](#)、Trend Micro
- ¹⁵ [Rebellions & Rejections Report](#)、HP Wolf Security、2021年
- ¹⁶ [Cybersecurity Team's Guide: Balancing Risk, Security and Productivity](#)、Delinea、2021年
- ¹⁷ [「IBM Report: Cost of a Data Breach Hits Record High During Pandemic」](#)、IBM Newsroom、2021年7月28日
- ¹⁸ Ray Canzanese、[「Cloud and Threat Report: Shadow IT in the Cloud」](#)、Netskope、2021年2月24日
- ¹⁹ Ariel Diaz、[「71+ SaaS Statistics & Trends」](#)、Vendr、2020年8月17日
- ²⁰ Chris Silva、Manjunath Bhat、Dan Wilson、Ryan Stefani、[Gartner Market Guide for SaaS Management Platforms](#)、Gartner および BetterCloud、2021年2月10日
- ²¹ [The Future of Time](#)、Adobe Document Cloud によるグローバル調査、2021年8月
- ²² [「IBM Report: Cost of a Data Breach Hits Record High During Pandemic」](#)、IBM Newsroom、2021年7月28日
- ²³ Jaime Teevan、Nancy Baym、Jenna Butler、Brent Hecht、Sonia Jaffe、Kate Nowak、Abigail Sellen、および Longqi Yang (編者)、[Microsoft New Future of Work Report 2022](#)、Microsoft、2022年
- ²⁴ [The Future of Time](#)、Adobe Document Cloud によるグローバル調査、2021年8月
- ²⁵ 同上
- ²⁶ [The Total Economic Impact™ of Adobe Acrobat Sign](#)、2022年1月
- ²⁷ 同上